

Rep
ort

身近な自然の観察・記録活動 石神井川緑道版

2020.8.13

一人ひとりの自主活動 だれでも参加できます

活動：月2回(第二木曜日・第四金曜日)10:00より(雨天中止)
コース：帝京大学付属病院北詰・御成橋たもと→金沢橋
問合せ・連絡先：090-8646-9757 木村松夫 com-matchan@hotmail.co.jp

梅雨明けで2週間、夏草大群生



8月に入ったら連日の熱中症警戒情報。

木々の間から漏れる太陽は「木漏れ日」なんていうロマンチックなものじゃない。くらからしてきます。

灼熱のアスファルトを歩くハトの羽が逆立っているのは体温を発散させるためでしょうか。



白い花のヒガンバナ、その「異変」



時々まちなかで観られるのですが紅い花のヒガンバナとは異種で、何かと交配してできた種のようなようです。でも、昼の時間と夜の時間が同じになる9月下旬の秋分の頃に開花するという特性は変わりません。それが今年は7/24に咲いていました。

7月は雨が降らなかった日がたったの1日で、日照時間が少なかったため、この白花ヒガンバナはもう秋が来たかと勘違いしたのでしょうか。しかも、通常開花期間は数日なのに、2株のうち1株は3週間後の8/13にもまだ咲いていて、これも異変です。もっとすごいのは、例年は咲いたとたん折ったり切ったりする非常識者がいるのに今年はそれがいないという、こちらの方が「大異変」なり。

ただの「雑草」としか見られていないイネ科 「わが世の夏」とばかりに生い茂る

東京に住んでいて「一度も絶対に見たことない」という人は絶対にいないイネ科の「雑草」。



↑ **エノコログサ** 左の写真は子どもの頃「猫じゃらし」と教えられた人が多いはず。和名を漢字で書くと「狗尾草」。犬の尾に似ているからということなのに「猫」とはこれ如何に？さては、昔の人は犬のしっぽに猫がじゃれているのを見たのかしら？ 中の写真ではそのエノコログサから芝草の花が伸び出ている「おや！こりゃ新種だよ！」と思うのは早とちり。エノコログサの茎に右上の**メヒシバ**の茎が絡んでいるのでした。メヒシバは花が付いた小穂（＝しょうすい。イネ科の花の多くは小さい花が穂状に付いているので、その穂をこう呼ぶ）が四方に放射状に伸びているのが特徴ですが、右下の小穂が太いのは好条件下で巨大化したものと思うと、これまた早とちり。別種の**オヒシバ**です。細いのを女（雌）、太いのを男（雄）として名付けられたのですが、これ、現代ではもしかしたら性差別！?!?!?



葉と茎だけを見ているとイネ科の植物は見分けをつけにくいのですが、このように小穂を観察すると分かりやすいです。小穂が段々についているのは**シマスズメノヒエ**、麦の穂にそっくりで、でも食べられないのが**イヌムギ**（右）。いずれも、今の季節に盛んに咲いています。



屋間に炎天猛暑の日は積乱雲が発達しています。夕方、気温が下がると夕立になることがよくあります。8/13 も午後3時過ぎには激しい雷雨。それが過ぎ去った5時ごろ、東の空に虹がかかりました。雨雲が幾重にもかかっていたのでしょう。虹も二重でした。

次回石神井川緑道観察は 8/28、10:00 御成橋スタート